

2013年6月24日・河北新報では

詩人町長 70年の創作史

『島山義郎全詩集』 島山義郎 著

「詩人町長」といわれた島山義郎さん（北秋田市）。詩作、詩誌の発行、校歌の作詞、評論と、創作活動は70年を超える。厳しい風土に生きる人々の命と暮らしを見つめ、幸福を願った。詩作品344編を中心に収録する本書は、長大な叙事詩を見るようだ。

島山さんは1924年生まれで、現在88歳。8人きょうだいの4男で、敗戦、復員、青年運動などを経験した後、秋田県下大野村、合川町（現北秋田市）の首長を計44年間務めた。小学校高学年で担任教師に俳句の魅力を教えられたことが、詩文学に目を開くきっかけとなった。

冬の夜空を見上げて、昆虫が舞い戻るのを待つ。雪解け水の流れる音に耳を傾け、川べりに揺れるネコヤナギを観察した。常に生命の内面を見つめようとした。

「孤独であればなつかしや／ふるさとにある風笛の／我が^{てのひら}掌にあるごとし」一戦後間もないころ作った詩だ。

「侵略される村…／われらの谷間には／われらの母と子が／ひそかに息づいている」。これは合川町長時代の作品で、地域主権を訴え、福祉事業に力を尽くした。

詩の友であり、本書の編集を担当した鈴木比佐雄さん（東京）は「民衆の幸福を願い、宮沢賢治の理想を追い求めた詩人」と語る。 コールサック社03（5944）3258＝5250円。

と紹介されています。